

◎塩酸バンコマイシン散 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】バンコマイシン塩酸塩 (VCM) (U) vancomycin hydrochloride 【分類】グリコペプチド系抗生物質

【単位】◎0.5g/V [MEEK]

【常用量】用時溶解し、1回0.125～0.5gを1日4回経口投与■1回125mgを1日4回投与するだけで十分な糞便中濃度を保つことが出来るという報告あり (Br Med J ii: 1667-1669, 1978)

【用法】分4～6

【透析患者への投与方法】減量の必要なし [1回0.125～0.5gを1日4回経口投与] (1)

【その他の報告】CD腸炎には1回0.125g, MRSA腸炎には1回0.5gを1日4回投与 (5) 偽膜性大腸炎の腸管病変が高度でかつ透析患者等、高度の腎障害患者では経口投与により血中濃度の上昇を来す可能性があるため注意。このような症例に長期大量投与する際にはTDMを実施する (5)

【保存期CKD患者への投与方法】減量の必要なし (1)

【その他の報告】腎機能に応じた投与量調節は必要ないが、炎症の強い腸炎では吸収されることがあるため、腎機能の低下した症例では血中濃度の測定を考慮 (5)

【特徴】塩野義製薬の経口VCM散を用いた場合、苦味や渋みは単シロップ [防腐剤・フレーバー等を含む] や牛乳でマスキングされるが、蒸留水やお茶、清涼飲料水では不十分である (金野 昇, 他: 日病薬誌 45:1487-9, 2009)

【主な副作用・毒性】ショック, 過敏症, 悪寒, 好酸球増多, 口内炎, 舌炎, BUN上昇, Cre上昇など

【吸収】ほとんど消化管から吸収されない (U) 重篤な腸管の炎症の場合吸収されることがある (5)

【F】0% (14) 通常はほとんど吸収されないが、強い炎症を伴ったCD腸炎やMRSA腸炎に用いた時には吸収されることがある (13)

【Cmax】通常、吸収されないが、腸粘膜の炎症性疾患や腎機能障害のある患者では、やや高くなるおそれあり (U)

【代謝】代謝を受けない (1)

【排泄】主に糞便中、糞便中濃度は2g/日投与時で約3100 μ g/mL (U)

【蛋白結合率】34.3% (1)

【MW】1486

【透析性】通常は吸収されないため該当しない (5) 吸収されたものについては点滴静注製剤を参照 (5)

【備考】1Vにつき注射用水8mLで溶解し、1日1V使用する際には4分割投与。単シロップを1回につき5mL添加して矯味する (5)

【更新日】20170417

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。